

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する専門調査会の  
テーマ及び今後の進め方について（案）

平成 20 年 7 月 1 日

20 年度テーマ案：

多様な人々の能力発揮を実現する「仕事と生活の調和」推進の在り方（仮題）

1. 問題意識

- 「仕事と生活の調和」の実現は、個人の希望を叶えるとともに、企業・組織、地域社会にとってもその成長のための活力の源となるものであり、個人、企業・組織、地域社会のすべてが好循環の関係で結ばれることが期待されている。
- しかし、企業・組織において、仕事と家庭の両立支援が行われていても、仕事における女性の登用など活躍の場の拡大が不十分であれば、仕事の意欲の低下等につながる可能性もある。他方、女性の活躍の場の拡大を推進しても、従来の男性の働き方を前提としたものであれば女性の継続就業の足かせとなることも懸念される。これらの場合には、人々の能力が十分に発揮できず、個人にとっては仕事での充実感が得られず、また、企業・組織にとっても生産性の向上につながらない。
- また、活力ある地域づくりを実現するためには、地域における仕事と家庭の両立と意欲ある女性の活躍の場の拡大の達成により、個人と地域とが好循環で結ばれることが必要である。しかしながら、地域活動を展開している NPO、地域団体等における女性の活躍はいまだ不十分なものであり、地域の抱えるさまざまな課題に対して、地域が自立的に課題を解決する力を有しているとは言いがたい。
- 個人、企業・組織、地域が好循環で結ばれる社会を実現するには、「仕事と生活の調和」の取組を通じて多様な人々の仕事への意欲向上と能力発揮を達成させることが必要であり、このことは、多様な生き方や働き方を希望している男女がいることを認め、それぞれ持てる能力を存分に発揮できる男女共同参画社会の実現と表裏一体をなすものである。

○ こうした問題意識のもと、以下の点について主に検討を行なう。

- ・ 多様な人々の仕事への意欲や能力発揮につながる「仕事と生活の調和」とはどのようなものか
- ・ 意欲の向上や能力発揮につながる「仕事と生活の調和」を実現するには企業・組織、地域においてどのような点に配慮し、また、どのような取組を行うことが必要か（人事・処遇制度の在り方、研修・教育等）

について調査検討を行う。

## 2. 検討項目（案）

### （1）現状認識

#### 【全般】

- ・ 企業・組織、地域で働く人の意欲や能力を高める上での必要な条件は何か。
- ・ 働き方に対してどのような希望をもっているのか。それが意欲や能力、また、退職行動にどのような影響を与えているのか。
- ・ 職域拡大や昇進に対する意向はどうか。また、職域拡大や昇進に否定的な理由は何か。就業前のキャリア教育など生活環境とどのような関係があるのか。

#### 【育児期】

- ・ 両立支援策等が整っている職場において、女性の継続就業・登用はどの程度実現できているか。また、その逆はどうか。
- ・ 両立支援策等の利用は男性にも浸透しつつあるか。
- ・ 特に、育児期の女性が、就業を継続する上で職場に求める条件は何か。また、就業を中断する（した）女性の退職の理由は何か。その頃の配偶者の働き方はどうだったのか。

#### 【その他】

- ・ 自営業者、農林水産業者等が仕事と家庭の両立面等で抱える固有な課題は何か。

### （2）政策課題に向けて

- ・ 働く人々の仕事への意欲向上や能力発揮につなげるには、両立支援策等に加えどのような取組を行うことが効果的か。
- ・ 多様性を受容し、それを活かすための人事マネジメント（人事評価、育成、活躍の場の提供など）はどうあるべきか。

（例：多様な人々に対する公正かつ透明性のある人事管理や評価の仕組みの構築、管理職の業務マネジメント評価、職域拡大、教育訓練等の支援、

育成過程にも留意した管理職への登用促進、男性も含めた働き方の見直し・職場環境整備の更なる推進、多様なロールモデルの提示、メンターの育成等相談・助言体制の構築)

### 3. 調査方法 (案)

- ・ 企業の従業員 (男女) や就業を中断した女性に対するアンケート調査を行う。
- ・ 併せて個人インタビューを行ない、就業に関する意識や希望等の調査を聞き取る。
- ・ 多様な人々の能力発揮に成功した先進的な企業、自治体、研究機関などの事例を幅広く収集する (15件程度)。
- ・ 両立支援策等を活用しながら成功した人 (管理職に昇進したり、経営層に加わった人) の事例集を作成する。

### 4. 最終的な成果 (案)

- ・ 仕事への意欲向上や能力発揮を最大限に促す「仕事と生活の調和」ための企業・組織、地域における効果的な取組についての提言を取りまとめ公表し、評価部会での議論につなげる。
- ・ 多様な人の能力発揮に成功した企業の事例を整理して提示、あるいは、企業に対して、そのための取組を促すためのガイドブックを作成してはどうか。

### 5. 今後の予定

平成20年7月1日	新テーマの審議開始 (フリートーキング) 有識者ヒアリング (山口シカゴ大教授)
(8月	問題意識の整理、調査企画 (委託業者選定作業))
9月	調査検討方針決定
(10~11月	調査実施)
12月	調査結果報告、意見交換
平成21年2・3月	報告書 (案) 審議
4月	報告書とりまとめ
→5月頃	男女共同参画会議へ報告